第56期　定時株主総会

2020年6月19日

JBCCホールディングス株式会社

JB group

事　業　報　告

本日のご説明

1. 2020年3月期　決算概要

2. Transform2020 進捗状況

3. 2021年3月期　取り組みと業績予想

当グループの概要

今年で創業56年。2万社以上のIT活用を支援

社名　：　JBCCホールディングス株式会社［東証1部9889］
設立　：　1964年4月1日
資本金　：　47億13百万円
社員数　：　2,180名（2020年4月1日現在）
［有期社員を含む連結ベース］
事業会社　：　12社

情報ソリューション

- JBCC（全国展開）
- CIS（中部地区）
- Finity（中部地区）※
- GBS（Web・クラウド）
- SOLNET（九州・中国地区）
- JBS（IT運用サービス）
- i-Learning（研修サービス）
- JBPS（オフショア開発）
- JBCN（上海・広州・大連）
- JBTH（バンコク）

製品開発製造

- JBAT（オリジナルソフトウェア、ハードウェア）

シェアード・サービス

- C&CBS（グループ会社スタッフ部門）

国内54拠点、海外4拠点

※　株式会社フィニティ　：　2020年4月1日付で、新たにグループ加入

1. 2020年3月期　決算概要

決算ハイライト

- 売上高、営業利益ともに前年比2桁超の成長達成
- 1株当たり純利益、ROEいずれも2年連続過去最高
- 中期経営計画前倒し達成

業績概況

（百万円）

	2019年3月期	2020年3月期	対前年	上方修正後 業績予想	進捗率
売上高	58,899	65,618	+11.4%	65,000	101.0%
営業利益	2,631 4.5%	3,461 5.3%	+31.6%	3,300 5.1%	104.9%
経常利益	2,738 4.6%	3,606 5.5%	+31.7%	3,450 5.3%	104.5%
当期純利益 （親会社株主に帰属する当期純利益）	1,782 3.0%	1,951 3.0%	+9.5%	1,950 3.0%	100.1%

事業分野別の状況

（百万円）

		2019年3月期	2020年3月期	対前年
情報ソリューション	売上	56,463	63,273	+12.1%
	売上総利益	15,443	17,021	+10.2%
	%	27.4%	26.9%	
SI	売上	14,743	17,797	+20.7%
	売上総利益	5,056	5,803	+14.8%
	%	34.3%	32.6%	
サービス	売上	23,322	25,165	+7.9%
	売上総利益	6,482	7,523	+16.1%
	%	27.8%	29.9%	
システム	売上	18,397	20,310	+10.4%
	売上総利益	3,903	3,694	-5.4%
	%	21.2%	18.2%	
製品開発製造	売上	2,436	2,344	-3.8%
	売上総利益	1,529	1,443	-5.6%
	%	62.8%	61.6%	
合計	売上	58,899	65,618	+11.4%
	売上総利益	16,972	18,464	+8.8%
	%	28.8%	28.1%	

キャッシュフローの状況

（百万円）

	2019年3月期	2020年3月期	キャッシュフローの主要要因
営業活動によるキャッシュフロー	1,837	3,216	税金等調整前当期純利益 売上債権の回収 法人税等の支払いまたは還付
投資活動によるキャッシュフロー	−178	98	社宅の売却
財務活動によるキャッシュフロー	−1,194	−1,368	自己株式の取得 配当金の支払（記念配当含む）

主な経営指標

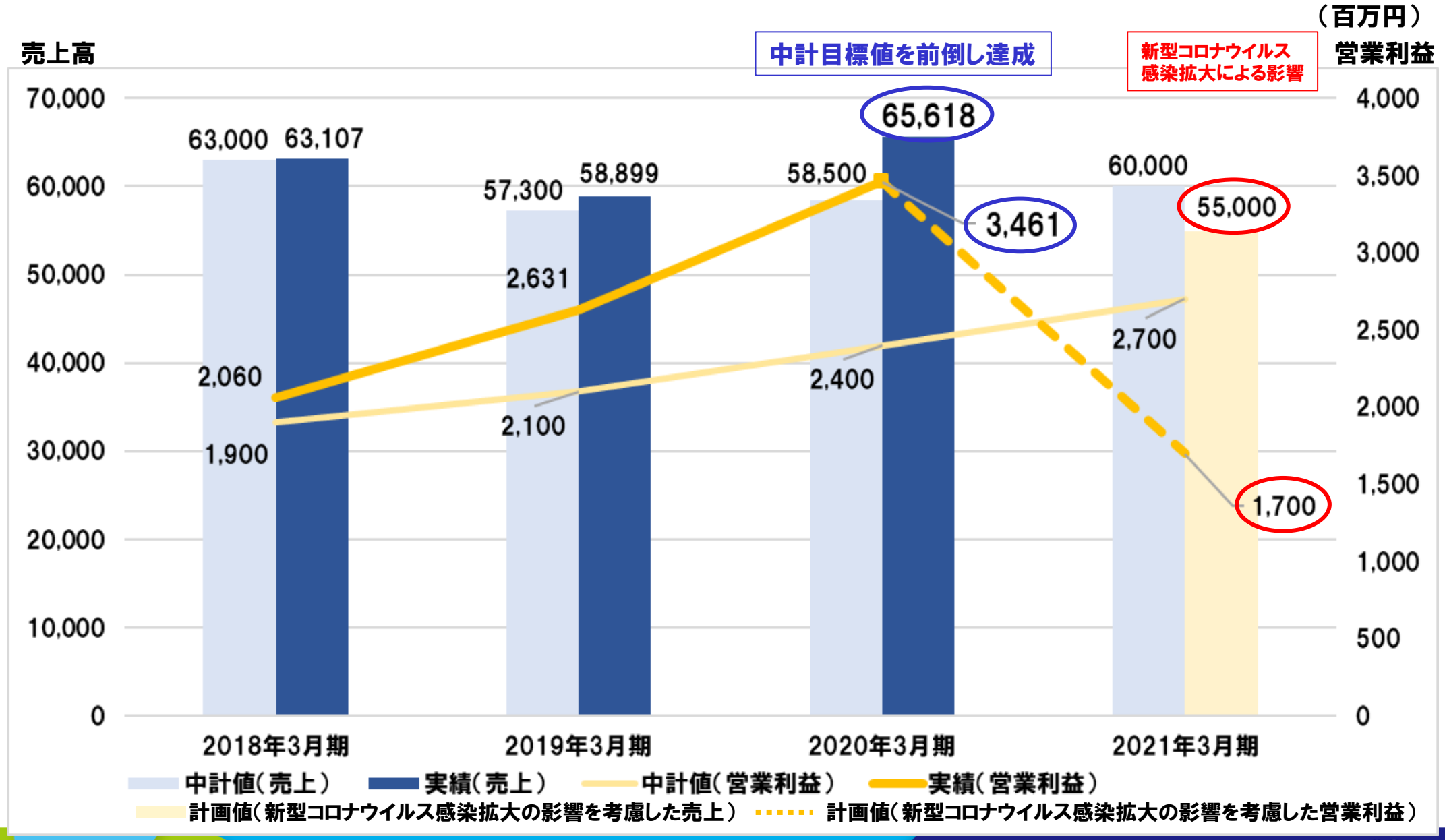
	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	対前年
売上高営業利益率	3.3%	4.5%	5.3%	+0.8%pt
ROE	8.3%	11.6%	12.4%	+0.8%pt
1株当たり当期純利益(円)	70.8	106.4	119.8	+13.4
フリーキャッシュフロー(百万円)※	-550	1,658	3,314	+1,656
1株当たり配当金(円)	32	普通配当 36 記念配当 10 計 46	50	+4

※ フリーキャッシュフロー ＝ 営業活動におけるキャッシュフロー ＋ 投資活動におけるキャッシュフロー

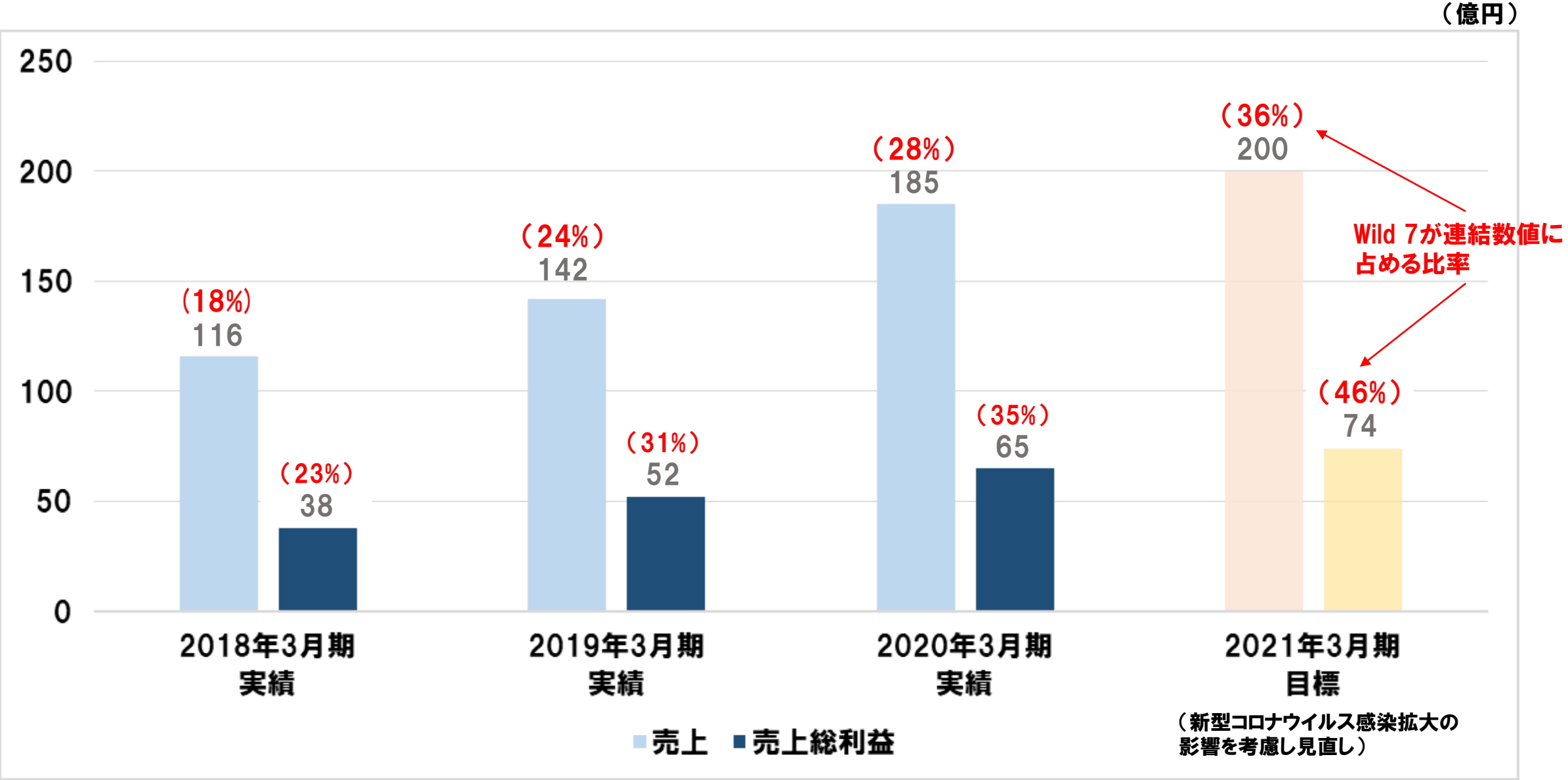
2. 中期経営計画 Transform 2020 進捗状況

Transform 2020 WILD7

Transform 2020 進捗状況

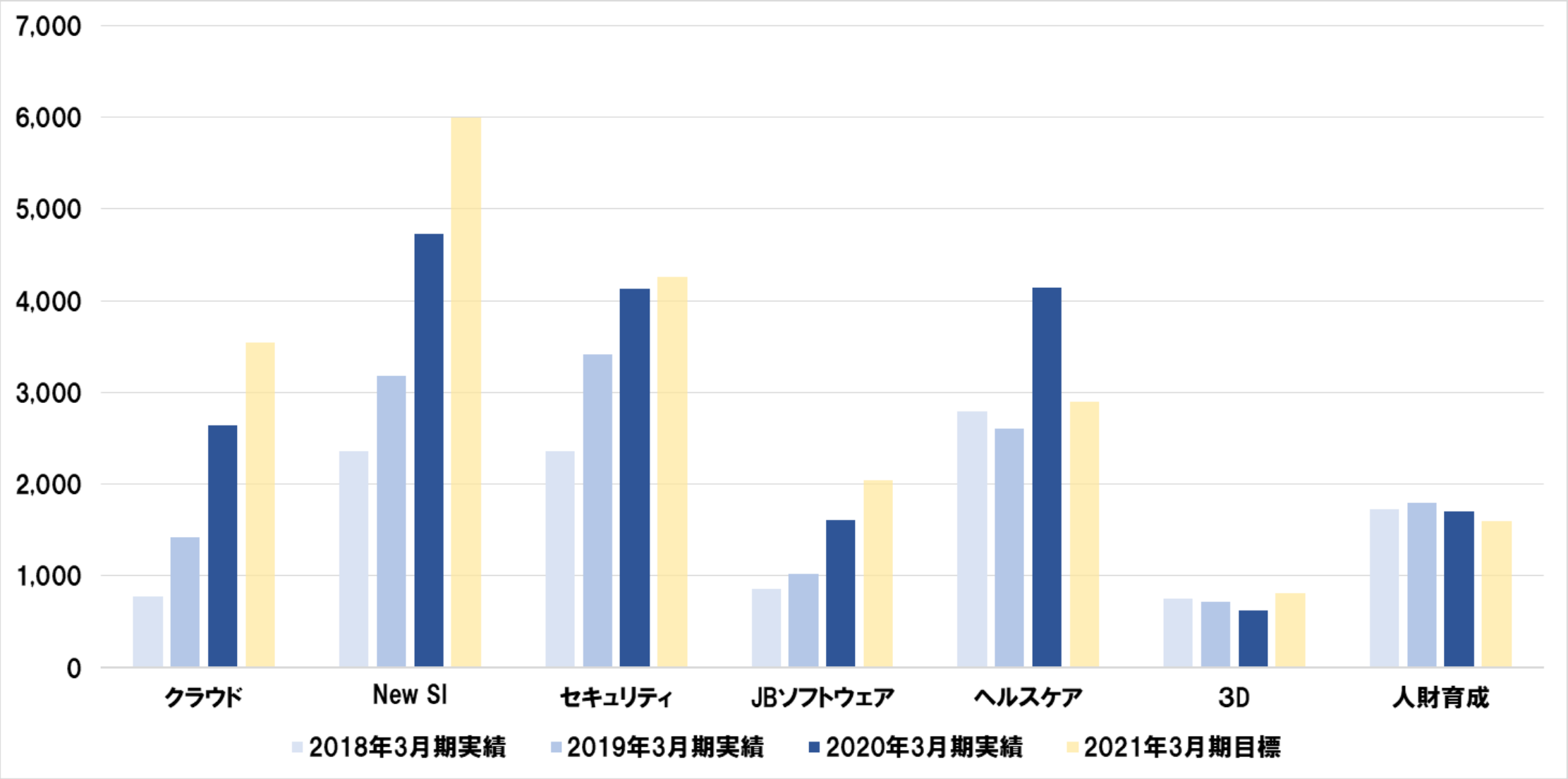


重点事業分野WILD7　進捗状況と目標値



重点事業分野WILD7　分野別売上伸長状況

（百万円）



【お客様事例：New SI】高速開発で受講申込み・受付システムを刷新

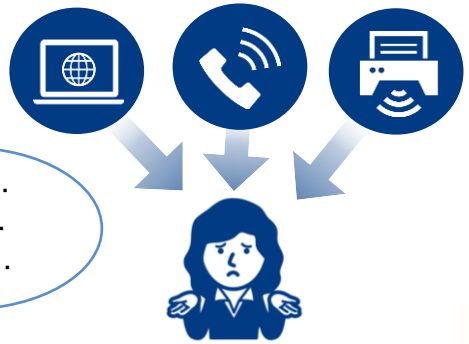
お客様概要

河合塾　すべては一人ひとりの生徒のために

教育事業

生徒数11万人超　　生徒の多様化
全統模試 :308万人　　新大学受験制度への対応（2020年度）

BEFORE



硬直した受付業務

老朽化した受付システム

AFTER

柔軟性　開発工数 1／3　業務効率 UP

グランド・デザイン セッション

製品戦略／価格戦略
チャネル戦略／プロモーション戦略
>> 各戦略への柔軟な対応

業務再構築

業務フロー見直し
システム機能の見直し
>> Web受付統一化

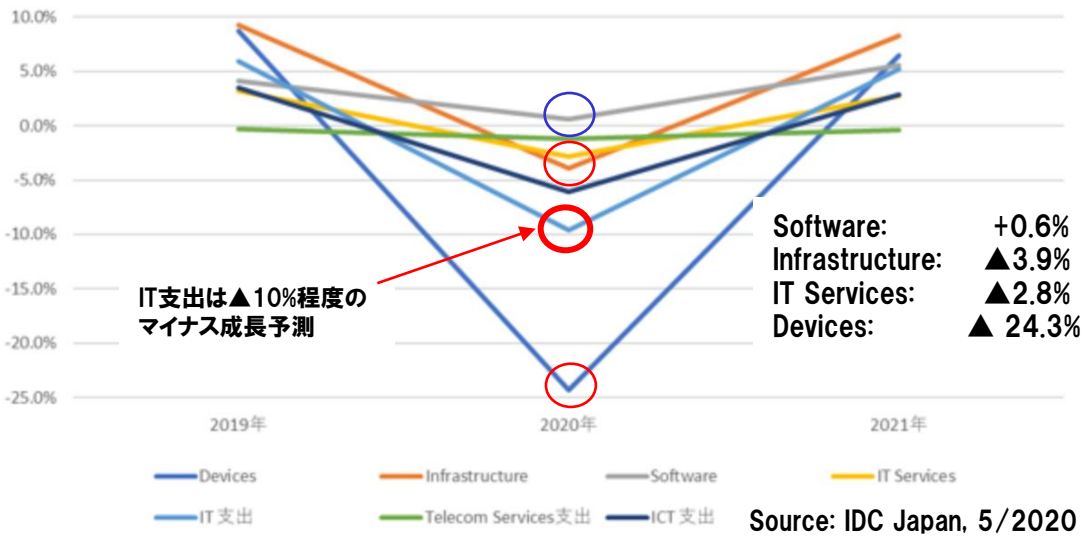
JBCCアジャイル開発

GeneXusによる大規模短納期開発
基幹業務開発実績
>> スピード開発　GeneXus™

3. 2021年3月期取り組みと業績予想

新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響と対応

◆2020年市場見通し（IDCによる予測）



Source: IDC Japan, 5/2020

◆2021年3月期連結業績予想に当たっての当社想定

- 第3四半期以降、経済活動が回復に向かうものと想定

◆特に影響を受けている事業分野

- ヘルスケア事業
- 人財育成サービス事業
- 海外事業（中国）

◆業務遂行体制の整備・拡充

- テレワークの推進、ITツールの拡充
- BCP委員会による事業継続への組織的な対応

◆当社の資金状況（十分な財務体力）

- 2020年3月末連結現預金残高　96億円
- 別途50億円のコミットメントラインを確保

◆安定的成長への取り組み

- 過去最高のSI/ITサービス受注残
- WILD7を中心とするストックビジネスの伸長

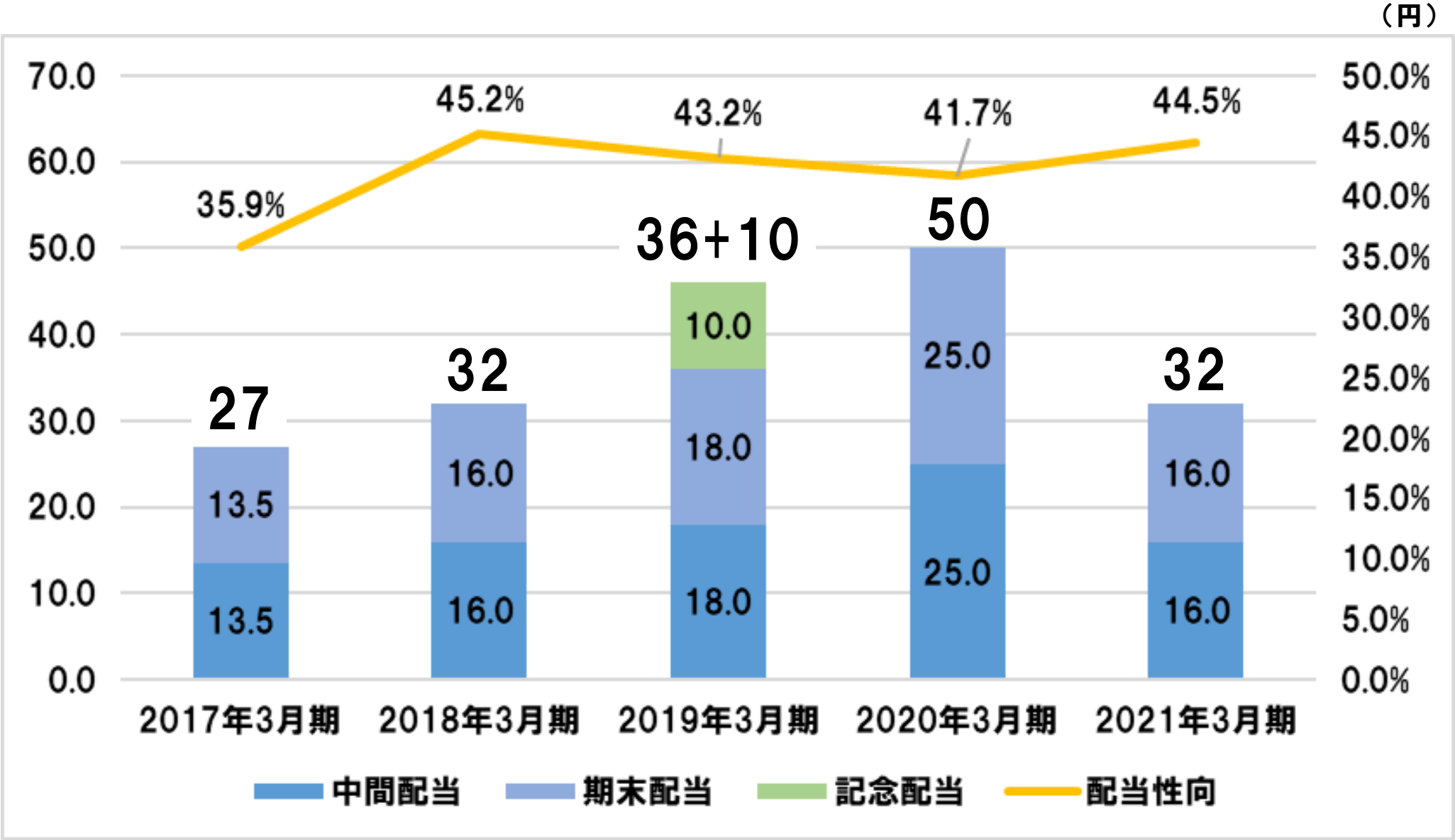
成長領域であるクラウド、New SI、セキュリティに一層注力しビジネスを拡大

2021年3月期業績予想

（百万円）

	2020年3月期 実績	2020年3月期 実績（特需除く）	2021年3月期 中計値	2021年3月期 予想	対前年 （特需除く）	対中計値
売上高	65,618	59,181	60,000	55,000	−7.1%	−8.3%
営業利益	3,461 5.3%	2,391 4.0%	2,700 4.5%	1,700 3.1%	−28.9%	−37.0%
経常利益	3,606 5.5%	2,536 4.3%	2,750 4.6%	1,750 3.2%	−31.0%	−36.4%
当期純利益 （親会社株主に帰属する当期純利益）	1,951 3.0%	1,294 2.2%	1,750 2.9%	1,150 2.1%	−11.1%	−34.3%

配当予想


（円）
70.0
60.0
50.0
40.0
30.0
20.0
10.0
0.0
50.0%
45.0%
40.0%
35.0%
30.0%
25.0%
20.0%
15.0%
10.0%
5.0%
0.0%
35.9%
45.2%
43.2%
41.7%
44.5%
27
13.5
13.5
32
16.0
16.0
36+10
10.0
18.0
18.0
50
25.0
25.0
32
16.0
16.0
2017年3月期
2018年3月期
2019年3月期
2020年3月期
2021年3月期
中間配当
期末配当
記念配当
配当性向

補足資料（用語集）

用語集①

用語	英語表記、読み方など	解説
クラウド	cloud	データなどはすべてネットワークの向こう側（＝クラウド：雲）にあり、利用者はインターネットに繋がるブラウザ端末を利用してデータの処理などを行ない、利用状況に応じて料金を支払うビジネスモデルのこと。
New SI	ニューエスアイ	新しいテクノロジー、最適な開発モデルでお客様とともにお客様のやりたいことを素早く具現化するというJBCCの考え方。
メインフレーム	―	主に企業など巨大な組織の基幹業務用などに使用される、大型コンピュータを指す用語。汎用コンピュータ、汎用機、汎用大型コンピュータ、大型汎用コンピュータ、ホストコンピュータ、大型汎用計算機 などとも呼ばれる。
オープンシステム	―	相互運用性、移植性、オープン標準などを持ったコンピュータシステムの事である。1980年代前半より、当時のメインフレームやミニコンピュータなどと比較し、主にUNIX（およびUNIX系）を指して使われた。
アジャイル開発	agile development	「俊敏な」「すばやい」という意味の英単語で、IT業界では経営環境の変化に迅速に対応できる柔軟な情報システムや、効率的なシステム開発手法などを指す

【出典/参考】
Wikipedia、IT用語辞典　e-Words、デジタル大辞林 他

用語集②

用語	英語表記、読み方など	解説
超高速開発	ー	業務アプリケーションの開発工数を劇的に短縮する開発支援ツールをはじめ、開発手法なども含めて、システム開発により高い生産性をもたらし、従来のシステム開発が抱えている問題解決などに活用していく考え方、開発への取り組みのことを指しています。
GeneXus	ジェネクサス	南米ウルグアイの「GeneXus S.A社」が開発した『超高速開発ツール』です。超高速開発ツールとは、アプリケーションやシステムなどを自動生成するためのソフトウェアです。自動生成がどこまでの工程をこなすかはツールごとに異なりますがGeneXusでは、ほとんどの作業を自動で行ってくれます。
IBM i Series	アイシリーズ	IBMのミッドレンジコンピュータシステムのシリーズである。日本ではオフィスコンピュータと分類される場合が多い。オペレーティングシステムとしてIBM i（旧・OS/400）を搭載している。 1988年6月21日にAS/400（Application System/400)として発売が開始され、2000年にiSeriesに改称され、2006年にSystem iと改称された。 2008年4月にそれまでのSystem pと統合され、Power Systems となった。
オフコン	ー	オフィスコンピュータの略称。主に中小企業等での事務処理を行うために設計された、比較的小型のコンピュータ。主に日本のみで使われる呼称で、海外ではミニコンピュータ、ワークステーション、ミッドレンジコンピュータなどと呼ばれるコンピュータの一形態で、各メーカーによる独自設計が用いられていることが特徴である。

【出典/参考】
Wikipedia、IT用語辞典　e-Words、デジタル大辞林 他

用語集③

用語	英語表記、読み方など	解説
AI	Artificial Intelligence	人間の脳が行っている知的な作業をコンピュータで模倣したソフトウェアやシステム。
チャットボット	Chatbot	「チャット」と「ボット（ロボット）」を組み合わせた言葉で、人工知能を活用した「自動会話プログラム」。
kintone	キントーン	サイボウズ株式会社が提供している、webデータベース型の業務アプリ構築クラウドサービス。マウス操作で直感的に自社に合ったシステムが作成できる他、豊富なAPIを通じて他システムとの連携も容易に可能となっている。
Qanat2.0	カナート2.0	JBATが提供する、企業内外(オンプレミス・クラウド)の様々なデータをノンプログラミングで簡単に他のシステムへ連携・変換し、業務の効率UP・運用コスト削減に貢献する ”データ連携ツール” です。 企業に不可欠な帳票作成・配信を自動化することで、作業担当者の負荷の軽減や、業務の属人化を解消する等、業務改善や企業の『働き方改革』にも寄与します。
Medical Vision	メディカルヴィジョン	JBCCが提供する、電子カルテシステム、医事会計システムを中心とした、時代とともに変化し続ける医療経営環境を見据え、 院内業務を効率的に改善する各種ソリューションの総称。

【出典/参考】
Wikipedia、IT用語辞典　e-Words、デジタル大辞林 他

用語集④

用語	英語表記、読み方など	解説
クラウドネイティブ	Cloud native	クラウド上での利用を前提して設計されたシステムやサービスのことである。主に企業の基幹業務システムに言及する際に用いられる。
Qanat universe	カナートユニヴァース	JBATが長年培ってきたハードウェア技術と業務パッケージやツール系ソフトウェアの実績に加え、最新のクラウド技術を結集したデータ活用クラウド基盤です。 従来、一元的に取り扱うことが難しかったセンサーやログ等のIoTデバイスからのデータと既存の業務システムの情報をクラウド上で収集、融合し、見たい形に振り分け、加工、集計することが可能です。 さらに、加工、集計したデータをノンプログラミングで別のシステムに連携することもでき、手軽に、低コストでIoTデータの活用を実現します。
RPA	Robotic Process Automation	AIなどの認知技術を取り入れたロボットに代行してもらうことにより、業務の大部分における自動化や効率化を図る取り組み。
5G	―	第5世代移動通信システム。「5G」(ごジー、ファイブジー)と略記される。1G、2G、3G、4Gに続く無線通信システムである。 2019年10月頃に細部を含めた仕様が確定する予定となっている。 GSMA(業界団体)の予想では、5Gの普及は非常に緩やかかつ限定的になると考えられており、2025年でも主流な移動体通信は4Gに当たるLTEであり、5Gが通信に占める割合は3Gの半分程度とされている。

【出典/参考】
Wikipedia、IT用語辞典　e-Words、デジタル大辞林 他

用語集⑤

用語	英語表記、読み方など	解説
DX （デジタルトランスフォーメーション）	ディーエックス （Digital transformation）	デジタル技術を出発点として、またはデジタル技術を駆使して、あらゆることをトランスフォーム（変化、転換）すること。情報技術の普及・浸透による「社会のデジタル化」がもたらす組織や社会の変革を指す言葉である。
コンテナ技術	Virtual Container system/ Virtual Container	OS上に他のプロセスからは隔離されたアプリケーション実行環境を構築することで、仮想的な動作環境を、より少ないコンピュータリソースで実現する技術のこと。開発者側では、開発・運用の作業や非機能要件の実現が容易になり、開発に専念できることで、お客様のやりたいことを素早く実現・変更することが可能になる。

【出典/参考】
Wikipedia、IT用語辞典　e-Words、デジタル大辞林 他

お問い合わせ

JBCCホールディングス株式会社
経営管理

TEL　　0120-887-652（土日・祝日を除く、9:00～17:00）
e-mail　ir@jbcc.co.jp

資料についてのご注意

・本資料は、当社の業績及び事業戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社の株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

・本資料に記載されている将来の動向や業績等に関する見通しは、リスクと不確定な要素を含んだ予測であり、将来の業績を保証するものではありません。
実際の業績は、様々な要因により見通しとは異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

・本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。